



生徒が“創る”学校生活

新劇の祭典 New Drama Celebration



「みんなで創った」新劇の祭典

「自分たちが、コロナで気分が減っている状況を打開しようと、提案した『新劇の祭典』。まさか、こんなに大成功するとは思っていなかった。みなさんの「やるぞ!」という気持ちと、先生方の（影での）努力もあって…。こんな大成功を修めたと思います。僕からここでありがとうと言わせて下さい。ありがとうございました!」

7月12日（月）「新劇の祭典」の表彰式で、この行事を発案した生徒会メンバーの一人から、全校の生徒や教員に感謝の気持ちが伝えられました。優秀賞などの表彰状も、生徒会の生徒により作られ、私（校長）や教員からではなく、生徒会の役員から手渡されました。

この「新劇の祭典」は、全体の企画立案・運営などや、台本・演者の練習・ダンス・衣装・音響・背景等々の各クラスの「劇づくり」を含め、まさに「最初から最後まで」生徒の手で「創り上げた」行事となりました。

「新劇の祭典」の始まり

昨年度、コロナ禍の中、修学旅行・合唱コンクールなど、大きな行事の中止や縮小が相次ぐ中、学校や世の中が暗い雰囲気になっていくのを感じていた子どもたち。このままではいけない、「コロナ禍にあっても学校や周囲を元気づけたい」そんな気持ちから、生徒たちが話し合って決めたのが「学校全体で行うクラス劇」というアイデアでした。とはいえ、まったく手探りの状態だった当初、どのように進めるかも中々まともじゃなかったようです。

生徒会の先生のアドバイスも受けながら、ようやく形になったのが、今年度4月の終わりごろ。そもそも全く予定になかった行事であったこともあり、教員の中にも、1学期にこの行事を行うことに対し、慎重な考えも多く見られました。（裏面へ）

「新劇の祭典」始動！

それでも、様々な課題を乗り越え、「クラス劇」のイメージが形になってきました。名前はアニメ「進撃の巨人」をモチーフにして、「新劇の祭典」。総合の時間を捻出して行うこととし6月や7月に大胆な時間割変更を行いました。生徒会により設定されたテーマは「劇（表現）を通して、コロナで暗くなった人の気持ちを明るくする」こと。劇づくりを通じて、互いを理解し合うこと、クラスの絆を深めていくことなどを旨とすることも確認されました。

全校生徒に、この企画が伝えられたのは、5月18日。校区合同オンライン朝礼で小学生も見守る中、生徒会の生徒たちが練りにねったプレゼンテーションを実施。全校の生徒の心に火をつけてくれました。

ホンモノ現る 元劇団四季俳優の支援を受けながら

さて、いよいよ本格的にスタートすることになりましたが、生徒も、多くの教員にとっても、初めてのこととなる劇づくり。様々な不安がよぎりました。そんな中で、力を貸して下さったのがミュージカル教室なども主催する元劇団四季俳優の羽根博司さん。子どもたちの思いを大切に、劇づくりについて、生徒や教員に多くのことを教えて下さいました。

全校生徒を対象に「一生懸命演技している人を絶対に笑わない」など、演劇で大切にすべきことや、発声のトレーニングなども体を動かしながら教えて下さいました。劇を進めるにあたって台本づくりのポイントなど、羽根さんの助言がなければ、新劇は今までとはずいぶん違うものになっていたかもしれません。本当に感謝、感謝です。

練習とリハーサル

練習期間は2週間ほど。他の教科の授業は変わりなく行っていくので、クラスで練習できる時間はわずかしかありません。どの学年・クラスも本当に熱心に、そして楽しそうに練習や準備に取り組んでいる姿が印象的でした。

リハーサルが行われたのは、本番の3日前（授業日として）のこと。ただ、正直に言って、この時点では形になっていなかったクラスが多かったのも事実。ただ、実際にステージの上で演技することを経験し、一人ひとりの生徒にとってとても大きな「学び」の時間になっていたように思います。

そして迎えた本番

新劇の祭典、1日目は3年生。どんな演技になっているか……。トップバッターは3組。最終的に最優秀賞に選ばれたクラスです。最初から度肝を抜かされました。まさか、子どもたちがここまでやってくれるとは…。次のクラスも、その次のクラスも、最後のクラスも。劇の雰囲気はまったく違いますが、ミュージカルさながらの構成のダンス、一人で独唱する生徒、各クラス3000円の予算で実現したとは思えない衣装や小道具。そして、iPadやタブレットPCをたくみに使いこなし、タイミングぴったりの音響。台本もよく練られていました。

2日目の2年生、3日目の1年生の演技も、学年によって雰囲気は異なりますが、どのクラスも本当に充実した内容でした。各学年の優秀賞や最優秀賞を選出しなければなりません。どのクラスにも最優秀賞を送りたい気持ちになりました。

特別企画として3年生の劇を1・2年生が観劇

今回、生徒が他学年の劇を見ることはないままに表彰を迎えてしまった新劇の祭典。なんとか、先輩の姿を1・2年生に見てほしいと考え、本日の終業式後、1・2年生に最優秀賞となったクラスの劇を観劇してもらうことを企画しました。3年生の姿から様々なことを学び取ってほしいです。



今年度 小津中学校は「ルールメイキングプロジェクト（仮）」に取り組みます

7月12日（月）の朝礼では、「ルールメイキングプロジェクト（仮）」の募集もありました。小津中学校は経済産業省の「未来の教室」の全国で11校の実証事業校として、「NPO 法人カタリバ」さんの全面支援を受けて、プロジェクトを進めていきます。

このプロジェクトは、生徒会メンバーと募集によって集まった有志の生徒たちが、サポーター（コーディネーターや有識者）の支援を受けたり、全国の他の事業校との交流を通じながら、自分たちの手で、校則など学校のルールづくりを実現していくプロジェクトです。

16日（金）には、生徒会と新たに加わった有志メンバーとともに、ルールメイキングのキックオフミーティングが開催されました。東京から、ともにルールメイキングをコーディネートして下さるNPO法人の「カタリバ」からコーディネータの方も来て下り、ミーティングがスタートしました。

この日のキックオフの内容は

- ・プロジェクトへの想いの共有（自己紹介や参加動機、やってみたいことの共有）
- ・「ルール」について学ぶ
- ・みんなが大切にしたいことを共有する

の3つ。

また、このプロジェクトの正式な名前も決定したようです（後日発表予定）。

今後、全クラスでの話し合いをもとに見直すルール（校則等）を決め、教員・保護者・地域の方々とも対話しながら、生徒の手で校則の見直しを実現していきます。

「みんなが安心 みんなで創る あなたが輝く学校」の実現に向けて。「みんなが安心」でき、一人ひとりが輝く個性を発揮できる」そんな学校を、メンバーを中心にみんなの手で「創って」ほしいです！